

賀露に響いた「舟曳き唄」

「ドットコセ コラ ウンエーエ

丸に蝶々は ヤアアンエ アラヤッテゴセーエ ヨーイヤナ

丸に蝶々は お殿さんのご紋 ヨーイトコナー」

賀露の港から出た帆船が、全国各地で正月用品を積んで帰る頃になると、中国山脈の凍結によって千代川の流れが乏しくなり、河口が浅くなることがありました。そのため、帰港した船が自力で港に入ることができないこともあり、そのような時に、大勢の人が力を合わせて船を港へ引き入れる際に唄ったのが、この「舟曳き唄」でした。

（賀露町伝承芸能保存会「解説 網尾一男」より）

山陰線の開通により帆船による海運業が衰えると、舟を曳く仕事はなくなりました。しかし、この唄は形を変え、賀露で栄えた造船業の船の進水式で歌われる「舟おろし唄」として残りました。また、賀露神社春季大祭では、千石船の模型のダシを子どもたちが曳く際の掛け声としても歌われました。しかし、やがて、歌えるのは二、三人の古老だけとなり、その後、歌われることもなくなりました。（昭和 48 年 2 月 読売新聞より）

この唄には、「ドットコセ」「アラヤッテゴセーエ」「ヨーイヤナ」など、特徴的な掛け声が残されています。これらは、伊勢神宮の式年遷宮※で御用材を運ぶ「御木曳（おきひき）」の際に歌われた木遣唄の一つ「松前木遣（まつまえきやり）」などに見られる掛け声です。

松前木遣は、北前船の航路を有する日本海沿岸に伝わったとされています。賀露も北前船の寄港地の一つでしたので、北前船を通じて松前木遣の影響が伝わったものと考えられます。

かつて賀露の港に響いた「舟曳き唄」。

その歌声をもう一度この町に響かせるための試みが、今年、賀露町伝承芸能保存会により始まりました。眠っていた唄が、再びよみがえろうとしています。

※式年遷宮：伊勢神宮で 20 年ごとに社殿や神宝を新しく造り替え、神様を新宮へお遷しする伝統的な儀式



出典 『賀露誌』 2009 年 賀露町自治会発行

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』「松前木遣」項